

たんぽぽだより



新しい価値が 生まれるとき

理事長 苅部 一夫



コロナ禍で人の心も経済も大きな痛手を受けています。しかし、一見悲観的な状況の中にあるにもかかわらず、目を見張る新しい価値を生み出している人々がいます。

そのいくつかをご紹介します。

これまで廃棄していた樹木片を薬品と高熱で処理することで、自在な成型ができるという技術です。自在に成型できるので、この技術を使えば、将来食器や家電、自動車内装などのプラスチック部品のほとんどが木に置き換えることができると言えます。脱プラスチックという世界的な動きの中、革新的な技術です。

目から鱗が落ちる技術はまだありません。それは、夢のような撥水処理技術です。布に施せば全く水を通さなくなるので、濡れない汚れない服になりますし、紙に施せばプラスチック製の食器や容器を自然由来の材料に替えていくこともできると言えます。

さらに、「ハイブリッド氷」なるものは、35%の食塩水だけで作った氷です。これを砕いた氷の中に、採ったばかりの魚を浸せば、たった数十秒で凍らせることができ、しかも、解凍しても味が落ちない。冷凍機械もいらないので、食料の長期保存、長距離輸送などを大きく変え、「脱炭素」や「フードロス」「エネルギー」「環境」に

かかる地球規模の課題（SDGs）を一気に解決する技術革新になる発明だと言われています。どの発明も身近な素材に着目した技術です。しかも皆、日本人によるアイデアだということからもっと驚きです。日本は、コロナのワクチン製造に遅れをとっていますし、世界を席巻するIT企業にも追いつけていません。しかし、町工場のなみのづくり技術は、日本のお家芸とも言われ、世界には真似できない精密で高度な丁寧な製品をつくるアイデアが沢山あることを知りました。

「SDGs」という言葉をよく耳にします。これは、国連総会で採択された「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のことで、「食料」「環境」「貧困」などの17の課題を2030年までに達成しようとする取り組みです。

地球規模で新型コロナ感染やSDGsの解決すべき課題が沢山あります。こうした時代にあって、私たちに困難を突き付けられているときや、目の前にある課題を解決しなければならぬときこそ、新しい革新的な知恵と技術が生まれるものだと思えます。

例年六月には、年度の事業・決算報告をさせていただいております。昨年度を振り返るとコロナの感染リスクの中にあって、ご利用者様、ご家族様には様々な面でご不便をおかけしました。しかし、だからこそ職員はご利用者様のことをより深く理解しようとし、思いに寄り添った支援も随所に見られました。大きな革新でなくとも、身近にある小さな課題にしっかりと向き合い、それを解決していく職員の姿にほっこりした気持ちになりました。

7月の活動予定

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17 開所日
18	19	20	21	22 海の日	23 スポーツの日	24
25	26	27	28	29	30	31

ご寄付をいただきました

～ありがとうございました～

全国本田労働組合連合会から、『自転車3台、ラミネーター、デジタルカメラ、ポッチャセット』のご寄付をいただきました。善意銀行からご案内があり、たんぼぼで現在、必要としているものを申請させていただきました。

5月17日、全国本田労働組合連合会 東京地方協議会 議長の増本様と事務局次長の鈴木様がたんぼぼにお越し下さり、目録と共に寄贈の品物を受け取らせていただきました。全国本田労働組合連合会では、「社会的役割を担う労働組合が責任の一端を果たすため、障がいのある人々に温かい援助の手を差し伸べ、さらには社会全体としての福祉政策の充実を訴求していこう」との思いで、全国で毎年継続して寄附活動に取り組んでいらっしやいます。

自転車は施設外就労などに、デジタルカメラは清掃作業の報告用写真や利用者様の記録写真を撮影、ラミネーターとポッチャセットは支援に活用させていただきます。（施設長 浅見 僚子）



～ 就労継続課の活動 ～



今年度の就Bでは、工賃アップと個別支援計画の充実に力を入れて取り組んでいます。特に工賃アップに関しては、利用者の方が一生懸命働く姿を日々目にしており、少しでもその頑張りが対価で反映できるように進めております。

昨年秋より始まった発送代行作業では、PCを使用した注文データの処理や商品の梱包・発送を担っております。工程を細かく分ける事で、多くの利用者の方が関わる事が出来、作業量も増えました。

Aさんは、以前は新しい作業に対して拒否が強く、指示されるまでは待っている受け身な様子が見られていました。しかし、経験がある袋入れの簡単な工程から始め、1つ出来た事が自信につながり、その積み重ねを経て、今では「今日は何をやりますか？」と自ら支援者に聞きに来て下さるようになりました。作業内容も封入以外の手紙折りやシール貼りなど複数の工程を担当され、作業スピードも早くなりました。こうして、利用者の方お一人お一人に得意な工程を役割として担って頂く事で利用者自身の意欲向上や責任感が高まり、丁寧さやスピードも上がってきています。

また自主製品では自主製品販売店舗「KURUMIRU」への出品商品数が増え売上も少しずつ伸びてきています。「やっこちゃん」や「ねこ」シリーズも好評をいただいております。新しい取り組みとしてプリンターを活用したTシャツやトートバックを製作しております。今後は外部から注文を受け、プリント業務が自主製品以外でも行えるよう展開していければと思っております。

コロナ禍により販売する機会が減っている中で、直接販売する以外の方法も模索をしており、まずは宣伝活動として、SNSのInstagram(インスタグラム)を始めました。利用者の方の素敵なイラストを使った自主製品の魅力を発信していけるよう頑張ります。ぜひ皆様、ご覧いただきフォローをお願いします。

(就労継続課 課長 小淵公子)



Instagram
アカウント名:houkitotiritori_t
(ホウキトチリトリ)

右のQRコードを読み取り
アクセスすることもできます。





～生活介護 現在の活動について～



早いものでもう6月になりました。「コロナウィルス」の感染者数が増え、なかなか外活動をするのが厳しくなっていますが、生活介護の外活動では、ウォーキングの他に、ボランティアさんを含めた農園芸の活動やぱどの配布・だより配りを行っています。

農園芸では生活介護の利用者皆さん、職員、ボランティアさんで土を耕し、ほうれんそう・じゃがいも・綿の種をまき、周りの雑草を取り、水撒きをしていただきました。ボランティアさん2名に参加していただき本当に感謝の気持ちでいっぱいです。だより配りでは、地域の方々の家を回り、交代で利用者さん自身で1軒1軒お家のポストに入れさせていただきました。だより配りをしている最中に地域の方々に挨拶をすることもできました。そして、近くにある南町小学校にもだよりをお届けし、副校長先生にも挨拶をすることができました。



室内の活動では、音楽活動が少し変わりました。浅見施設長がピアノを弾きながら、活動に参加して下さっています。プログラムでは「季節の歌」や「リズム活動」も加わり、利用者さん一人ひとりが生き生きと活動する場面が増え、自然と笑顔も増えてきました。「どれみのうた」ではハンドベルを使い、ドの



ハンドベルは〇〇さん、レのハンドベルは〇〇さんというよう

に各利用者さんに一つの音のハンドベルを担当していただいています。ハンドベルの鳴らし方が、最初はできなかった方もいましたが、何回かやるうちに鳴らし方を覚えられ、徐々に自信をもって、ハンドベルで演奏することができるようになってきました。練習の積み重ねというものがいかに大事かわかる光景でした。

また、もう一つの室内の活動として調理もあります。調理では、昨年からは皆さんに一つのメニューに対していくつかの好きな具材を選んでそれをトッピングすることも実践しています。利用者さんによって好きな具材が違って来るので、利用者さんごとに違ったものを作ることができています。皆さんが自分たちでトッピングをしたものを「おいしい」といわれ、笑顔で召し上がっていらっしゃるのを見ると、職員にも自然と笑顔が出てきます。

生活介護では色々と自粛がある中、工夫をして皆さんが楽しみながら過ごしていただけるよう職員一同頑張っています。これからもどうぞよろしくお願い致します。



(生活介護課 課長 山崎未来)